

平成 22 年度 教師海外研修（研修国：ウガンダ共和国）実践報告書

1. タイトル： 国際支援ってなんだ？ ～青年海外協力隊の活動を通して～
2. 氏名： 常光 史明
3. 学校名（担当教科）： 金沢市立中央小学校
4. 実践教科（時間数）： 総合的な学習（5時間）
5. 対象生徒・学年（人数）： 6年（31名）
6. カリキュラム

(1) 実践の目的

- ・ ウガンダの国や子どもたちの生活や文化に触れることで、自分たちとの共通点・相違点を考える。
- ・ ウガンダを通して、世界に目を向ける。
- ・ 青年海外協力隊の方の活動を学ぶことで、国際支援についての考えを深める。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ：ウガンダって どんなところ？ ねらい：位置・気候・文化な どについて知る。	①プレゼンからウガンダについての 位置・気候・文化などを知る ②事前アンケートを元に、ウガンダ との共通点・相違点を考える	① 世界地図 ② ウガンダで収集し た写真、通貨等 ③ パワーポイント
2 限目 テーマ：ウガンダの子どもた ち ねらい：ウガンダの子どもた ちの生活や考え方につ いて知る	①ウガンダの小学生の一日の生活に ついて知る ②ウガンダの子どもたちが描いた絵 を見て、自分たちとの共通点・相 違点を考える。 ③ウガンダの小学生が考えているこ とや思いを知る	①パワーポイント ②ウガンダの子ども たちが描いた絵
3、4 限目 テーマ：ウガンダで活躍する 日本人 ねらい：青年海外協力隊や専 門家の方たちの活動 について知る	①ウガンダで出会った日本人の方々 がどんなことをしているのか知る ②どうしてこんなにもたくさんの日 本人が、ウガンダで活動している のか考える ③ビデオや資料などで調べる	①パワーポイント ②ウガンダで出会っ た人たちの写真 ③ビデオ
5 限目 テーマ：協力隊の方に聞いて みよう ねらい：協力隊の方の話を通 して、国際支援につ	①協力隊の方から、実際に現地での 生活の様子や活動についての話を 聞く ②聞いて学んだことの感想を発表し 合う	①パワーポイント

<p>いての考えを深める</p>		
<p>6 限目                  テーマ：本当の国際支援ってなんだ？                  ねらい：国際支援の観点から自分たちには何ができるか考える</p>	<p>①国際支援という考え方から、今の自分に何ができるかを考える。                  ②学習を通して、課題についての最初の自分の考えと比べながら、国際支援について考える</p>	<p>①ワークシート</p>

(3) 本時の学習

テーマ 国際支援について考えよう ～元協力隊の方の話を通して～

1. ねらい：青年海外協力隊の方の話を通して、実際に他の国へ行ってどんなことをするのかを知り、国際支援についての考えを深める。
2. 対象：6年生（92名）
3. 時間：11月25日（木）5限目（45分）
4. 展開：（総時数6時間扱いの本時は5時間目）

	学習活動	資料・準備物
<p>導入 5</p>	<p>これまでの授業を通して、日本より貧しい国への支援を行う理由についての考えを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>青年海外協力隊って、どんな考えや思いをもって支援をしているのかな</p> </div>	<p>・ワークシート</p>
<p>展開 30</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元青年海外協力隊の藤本 理さんを紹介し、現地での活動などを紹介してもらう。</li> <li>・どんな思いをもってネパールで活動していたのかという話を聞く。</li> <li>・聞いてみたいことを質問する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・ネパールでの衣装</li> </ul>
<p>まとめ 10</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤本さんの話を聞いて、課題に対する自分の考えを書く。</li> <li>・考えを発表し、交流する。</li> </ul>	<p>・ワークシート</p>

## 7. 授業の詳細

### 課外（海外研修前）

海外研修前の授業として、子どもたちがウガンダについてどれだけ知っているのかを確認してみた。

世界地図を見せ、「ウガンダってどこにあると思う？」という問いから始めた。全然知らないかと思いきや、アフリカ大陸を指さす子が多かった。次に、「ウガンダってどんな国だと思う？」と、ウガンダやアフリカという国に対するイメージを聞いた。これは予想通り、「あまり恵まれていなさそう」「子どもも働いていそう」といったマイナスのイメージがほとんどだった。また、気候については、すごく暑い国と考えている子が半数近くいた。

最後に、この国へ行ってたくさんのことを勉強してくるよということを伝え、「ウガンダの子どもたちに聞いてみたいこと」「ウガンダの国へ行ってきてほしいこと」を聞いて授業を終えた。

### 子どもたちへのアンケートのまとめ

#### <ウガンダ（アフリカ）のイメージ>

##### 人・生活

- 9・あまり恵まれていない（食料、まずしい、へびなども食べている
- 6・頭になんか置いてそう（物をのせている）
- 5・子どもも働いていそう
- 4・髪の毛がちりちりしてそう
- 4・布一枚でいそう（巻いている、日本と少し違う、風変わり、民族衣装）
- 2・鑑真みたいに髪の毛がない人がいる
- 2・身長が高そう 2・がりがりっぽい（やせている人が多い）
  - ・狩りをしている 　・木の上で住んでいる 　・口が大きい 　・はだし
  - ・路上で立ち往生する人が多そう 　・陽気な人が多そう 　・頭がよさそう
  - ・でっかい帽子をかぶっている（麦わらぼうし） 　・ターバン 　・家が木でできている
  - ・湖で毎日水をくんでそう 　・お年寄りが多い 　・病気が多そう
  - ・曲に合わせて踊っていそう 　・ラクダに乗ってどこかに行っていそう

##### 自然・気候

- 13・気温が高そう（暑い） 4・砂に囲まれていそう（林が少ない、砂漠）
- 2・動物がうろちょろしてそう（たくさん） 2・ゾウがいそう
- 2・自然がたくさんありそう 　・木に木の実がたくさんなっている木がある
  - ・ジャングル・森で日光がさえぎられて涼しそう 　・砂ぼこり

##### 社会

- 3・そんなに発展していない（技術、発展途上国） 2・戦争の被害が多い
- 2・危険物がいっぱいある（地雷） 2・治安が悪い（盗み、スラム）
  - ・差別がありそう 　・小学校が少ない 　・水が汚い

<ウガンダの子どもたちに聞いてみたいこと>

- 5・日本のイメージ 2・将来の夢 2・勉強は好きか（楽しいか）
- ・他の国へ行きたいか
  - ・今の生活で満足しているか
  - ・この国の自慢
  - ・今はやっている遊び
  - ・ウガンダは好きか

<ウガンダでしてきてほしいこと>

- 2・気温をはかってきて欲しい 2・写真、ビデオを撮ってきて欲しい
- ・じゃんけん
  - ・ゆびずもう
  - ・ウガンダ自慢の料理を食べてきて欲しい
  - ・見た野生動物の写真を撮ってきて欲しい

1 時間目

ウガンダの国、風景、人々などをパワーポイントのスライドを使って紹介した。この時間は、サブサハラ的交流で、ザンビアとマラウイのゲストの方もいらっしやったので、ザンビアとマラウイの紹介も少しおこなった。聞いている時間が長かったが、子どもたちは初めて知ることに驚き、それまでの自分のもっていたアフリカのイメージが変わった子どもいた。

2 時間目（授業参観）

ウガンダの子どもたちを紹介するのに、ウガンダでの自分の授業をしている写真を見せた。その授業の中で、6年2組の子どもたちが書いてくれた名刺を渡し、代わりにウガンダの子どもたちにも名刺を書いてもらったことを伝えた。そして、実際にその名刺を見せたことで、子どもたちはウガンダの子どもたちに親近感を覚え、そこに書かれている文字や絵から、ウガンダの子どもたちの様子を感じ取ろうとしていた。その中の一枚に、似顔絵が描かれたものがあった。それを見た本人は、とても感動していた。

<ウガンダの子どもたちが書いた名刺>



次に、ウガンダの子どもたちや学校についてクイズ形式でおこなった。特に盛り上がったのは、3つの項目「好きな遊び」「将来の夢」「いちばん大切にしているもの」をクイズ100人に聞きましたの形式でおこなったクイズだった。事前に6年2組の子どもたちにもアンケートして集計したものと、ウガンダの子どもたちのアンケートを集計したものを比べながらおこなった。

いちばん印象に残ったのが、「いちばん大切にしているもの」だった。ウガンダの子どもたちが何を大切にしているのか。6年2組の子どもたちもあげていた“家族”“命”な

どはすぐに当てることができていた。しかし、最も多くのウガンダの子が大切だというのが出てこない。結局、誰も当てることができなかったのは“教育”という答え。義務教育として、小学校に通うのは当たり前だと思っている日本の子どもたちからは絶対出てこないだろう。

<授業後の子どもたちの感想>

- ・命より大切な勉強への思いを見習いたい。
- ・ウガンダの子どもたちは、日本の人たちよりも大人なんだなーと思いました。
- ・日本で「変わっているね〜」って思うことをウガンダでは大切だなんて、日本は恵まれすぎている・・・と思いました。
- ・やっぱり、日本は日本でいい所もあるし、ウガンダもウガンダだと思いました。
- ・家族より、教育が大切と思っている人たちが26人もいて、「大切にしているもの」だんとう一位で驚きました。ウガンダは貧しいのに、みんな明るくて楽しそうだなあと感じました。

### 3 時間目

まず、パワーポイントのスライドを使って、ウガンダという国で出会った日本人14人を全て紹介した。

そして、子どもたちに「何でや？」ということを訴えかけた。はじめは意味の分からなかった子どもたちだったが、次第に「何でや？」の意味を「ウガンダという遠く離れた国に、こんなにもたくさん日本人がいて、そこで活躍しているのか」と捉えることができていた。



次に、学習問題を考えた。いくつも出てきた中から、「なぜ貧しい国をボランティアで救おうとしている人がたくさんいるのか」に決まった。“貧しい”という言葉が少し引っかかったが、物質的には日本が豊かであるということや精神的には日本とウガンダに差はない、むしろウガンダの方が恵まれているのではないかという感想が多く見られたことから、そのままいくことにした。そして、今現在の自分の予想や思いを書かせた。

<子どもたちの考え>

- ・貧しい国を救って日本みたいにならなくて苦しめない日本やUSAみたいな国になってほしいと思ったし、日本じゃなくて世界にも役立ちたいからやっていると思う。
- ・日本はけっこう発展している国だから、貧しい国をその知識で助けようと思ったから。
- ・自分たちでなにかできるんじゃないかと思いながらボランティアをやっているんだと思います。
- ・自分のような暮らしではない人たちもいるという事を知る、自分育て？
- ・ぼくだったら、ウガンダの話聞いて、自分たちがぜいたくをしていることがだらしなそう思うから、貧しい国のボランティアくらいできると考えた人や、かわいそう、助けてあげたいという心が、救おうとしていることにつながると感じました。
- ・きっとその人たちは、同じ子どもなのに日本の子どもと違いすぎると感じ、かわいそ

うと思ったから、世界の人たちは同じ人間なのだから助け合って生きていけたらと思うすてきな人がたくさんいたんだと思います。

#### 4 時間目

JICA からお借りしたビデオ、資料を使って学習問題について考えた。ビデオは「依存大国日本」「世界は、キミにつながっている」「青年海外協力隊の紹介」の3本を見た。資料は、「集まれ！地球の教室」「どうなってるの？世界と日本」の2冊から印刷して配布した。子どもたちがよく興味を示していたのが、日本で作られた食べ物しか食べられなかったどうなるというものだった。一日のメニューを見ると、ごはんとふかしいもしか食べられず、ほとんどの食材が外国から輸入されていることを初めて知った子もいたようだ。

#### 5 時間目

元青年海外協力隊の方に来ていただき、その活動内容や思い、よかったことやつらかったことなどを話してもらった。ネパールに作業療法士として活躍した藤本さんの話はとても分かりやすく、子どもたちも真剣に聞いていた。子どもたちは、ネパールについて、作業療法士の仕事のこと、どんな思いをもって行ったのだろうかということに強い関心を示していた。特に、時期を違えて2回行ったということに対して、すごいと感じていた子が多かった。

#### 6 時間目

国際支援ということについて学習してきて、今の自分たちにどんなことができるのかということ考えた。あまり難しく考えている子は少なく、学校で取り組んでいるエコキャップ運動やアルミ缶集めなどが国際支援につながっているという意見が出ると、どの子も納得していた。

最後に、「なぜ貧しい国をボランティアで救おうとしている人がたくさんいるのか」という学習問題について、自分の考えを書かせた。学習する前と比べて、自分たちの国である日本についてやそれを取り巻く外国についての認識が、ガラッと変わっていた。この学習を通して、自分たちの生活がさまざまな国によって支えられているということも分かったようだ。

#### <学習後の子どもたちの考え>

- 人にはそれぞれきっかけはありますが、気持ちはみんな一緒だと思います。世界のみんな平等です。そして、日本は昔戦争で負けて、いろいろな国から援助してもらいました。その恩返しでボランティアをして、貧しい国を救おうとしています。確かに、日本は助けられたのに、助けてあげるのはあたりまえだからだと思います。こういうことを学んで、私も大人になったらいろいろな国に行って、いろいろなことを感じたいです。
- 戦争で、いろんなものを失って、その時外国にいろんなものをもらって今の日本になったというのなら、とてもありがたいし、ボランティアで貧しい国を救うことくらいはできると思い、たくさんボランティアの人で恩返しをしているのだなと思いました。みんなで互いに協力しているから、生きていけるのかなと思いました。

- ・昔、日本も途上国で何も無い時に、いろいろな国に援助してもらって今の生活になっている訳だから、途上国のボランティアをして恩返しをしたいからやっているんだと思います。これが国から国へとつながればいいなと、私は思いました。
- ・私は、なぜボランティアで救おうとしたのかで、違う国で苦しんでいる人になにかしてあげられれば・・・、と思ったからなんじゃないかと思いました。私はこの学習をする前まではかわいそうだとしか思わなかったけど、学習して、苦しい生活の中で明るく生きられるってすごいことだなと思いました。
- ・私がこの学習を終えて思ったことは、日本はいろいろな国に支えられながらこの平和を保っているということです。だからボランティアの人は、この日本を支えてくれている感謝の気持ちとして、たくさんの人がボランティアをやっているのかなあと思いました。私もなにか、感謝の気持ちを行動であらわせたらいいなと思います。
- ・ぼくはこの学習を終えて、その救おうとしている人たちは、この世界中が食糧にも困らず、何一つ不自由なく暮らせるようなところになったらいいなと思ってボランティア活動を続けているんじゃないかと思います。自分で精いっぱい勉強して、世界中を楽し世界にしようとする気持ちはとてもすごいことだと思います。
- ・日本は、生活に必要な物などをほとんど輸入に頼っています。しかし、その輸入は、「発展途上国」や「開発途上国」からのものばかりです。今、水がなくて困っていたりする貧しい国で、その貴重な水を使って育てた食材などを輸入している日本は、そのかわりに外国へ行ってお手伝いをしているから、貧しい国をボランティアで救おうとしている人がたくさんいるんだと思いました。
- ・日本人がボランティアで救おうとしているわけは、日本は外国に技術などを教えると、その国が発達していき、良い製品や安全な食べ物がつくられる。その製品などを日本が輸入することで日本も得するしその国も得する、そのようにみんなで助け合って生きている。

## 8. 資料など

DVD 「「依存大国日本」「世界は、キミにつながっている」

ビデオ「JICAって」

参考文献

「集まれ！地球の教室」 J I C A

「どうなってるの？世界と日本」 J I C A

中村安希「インパラの朝 ユーラシア・アフリカ大陸684日」 集英社